

見学
可能

事前
申込

越前焼窯元手帖



工房見学
お1人550円～

越前焼窯元工房見学お申込みの流れ

工房見学するには事前にご予約が必要です。下記QRコードより専用サイトよりお申し込みください。

① 見学を希望する日時でお申込ください。※希望日の3日前まで

お申込みはこちらから



② お申込み内容を確認後、見学可能かご連絡します。

ご希望日に実施できない場合は、別の希望日をお伺いいたします。

③ 当日指定場所に指定時間までにお越しください。

※当パンフレットには、工房見学を歓迎する（一社）越前町観光連盟加盟の窯元を掲載しています。

発行／一般社団法人越前町観光連盟 〒916-0422 福井県丹生郡越前町厨71-335-1

TEL：0778-37-1234

（2024年4月発行）

URL：https://www.town-echizen.jp



今から約850年前、平安時代末期に越前焼は生まれました。

鉄分を多く含む良質な土に恵まれ、耐久性に優れた大甕や屋根瓦を生産し、すぐ近くが越前海岸という立地から、北前船によって商品が運ばれ、北は北海道から南は島根県まで広まり、北陸最大の窯業産地として発展しました。

しかし、水道の普及や磁器製品の広まりにより需要が落ち込み、越前焼は一時期衰退し、絶滅の危機に瀕してしまいます。その後、地元の研究者水野九右衛門氏と日本の陶磁器研究者小山富士夫氏によって発掘調査と研究が進められ、越前焼が瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前とともに「日本六古窯」の一つに数えられ復興を遂げることになりました。

近代化による大きな産業発展を遂げることがなかった越前焼の産地は、逆に当時のままの原風景が残り、当時のままひたむきに作陶に取り組んでいます。

環境も作り手も焼物も、素朴でひたむきな越前焼のふるさとお楽しみください。



越前焼とは

越前焼は、主に越前町の宮崎地区と織田地区で作られており、釉薬を使わず、高温で焼いた時に薪の灰が粘土と反応して発生する自然釉で知られる焼物です。1986年に通商産業省（現経済産業省）から伝統的工芸品の指定を受けています。

「越前焼」（伝統的工芸品ハンドブックより）

●技術・技法

1. ねじ立て成形、ろくろ成形、手ひねり成形、押型成形
たたら成形によること
2. 素地の模様付けは、櫛目、はり付け、へら描き、印花、突き刺し、化粧掛け、掻き落としによること など

●原材料

使用する陶土は、青ねば、赤べと、太古土（たこつち）、または、これらと同等の材質を有するものとする

越前焼の歴史

越前焼の誕生は今から約850年前の平安時代末期に遡ります。もともと須恵器を焼いていましたが、常滑の技術を導入し、焼き締めによる陶器を作り始めました。最初に窯が築かれたのは、現在、越前陶芸村のある小曾原辺りだったと云われています。

○室町時代、最盛期に

かたくて丈夫な越前焼は、越前海岸から北前船に乗せて北海道南部から島根県まで日本海沿岸の人々のもとに運ばれ、大きな壺や甕は水や穀物の貯蔵、藍染などで重宝され、室町時代後期、越前焼は日本海側最大の窯場へと発展し、最盛期を迎えました。

○越前陶芸村の整備

明治時代には、信楽や瀬戸、美濃、九谷などの先進地から陶工を招き、食器や花瓶なども作り始め、陶器や色絵なども取り入れようとしてきましたが定着せず、明治末から大正時代にかけて窯元の廃業が相次ぎ、絶滅の危機に瀕しました。

再び注目されるようになったのは、戦後のことで、「日本六古窯」に数えられるようになり、越前陶芸村の整備によって多くの陶芸家が集まりました。

A B O U T 越前焼



福井県陶芸館所蔵「双耳壺」



JAPAN HERITAGE

日本遺産

日本遺産に登録

日本六古窯の産地を有する6市町が「きっと恋する六古窯 ～日本生まれ日本育ちのやきものの産地～」のストーリーを文化庁にアピールし、2017年4月に日本遺産に認定されました



越前焼の特徴

○土の特徴

越前焼に使われる土は、鉄分が多く含まれ耐火性も強いので表面の色が赤黒・赤褐色の焼き上がりとなります。また、土が焼き締められていることから、水漏れしにくいという特徴があります。

当初の焼成方法は、穴窯（山の斜面をトンネル状に掘り抜いた全長13m前後の穴）が用いられ、1300度近い高温で1週間ほどかけて焼き上げていました。



○大量生産へ

室町時代後期には、甕60個、すり鉢1,200個を焼くことができる全長25m以上の巨大な窯が越前町平等に集められ、大量生産の形ができました。また、江戸時代後期には、愛知県瀬戸から連房式登り窯の技術が伝わり、登り窯による生産も行われています。

○日本六古窯のひとつに

越前焼が六古窯と呼ばれるようになったのは、陶磁研究家の第一人者である小山富士夫氏が「越前焼は日本陶磁史上最も貴重な遺跡のひとつで、日本五古窯に匹敵する規模と歴史がある」と発表したことがきっかけです。その後、地元越前町熊谷の水野九右衛門氏が小山氏の指導を受けながら発掘調査・研究を行い、周辺山々に200基以上の古窯が残り、平安時代末期から江戸時代にかけて壺や甕の生産が行われていたことが分かりました。

現代の越前焼

越前の土を生かした素朴で頑丈なつくり、温かみのある土と、灰釉の味わいを秘めた民芸的な美しさを有し、その伝統は今日まで引き継がれ多くの人に愛されています。

現在、県内には約80名の窯元がおり、越前町内にはその約半数が工房を構え、日々作陶に取り組んでいます。近年は、焼き締め調の伝統を生かしながら、様々な新しい製品づくりも試みられています。



とうせいしゃ
踏青舎

泉 直樹

越前町大王丸21-69

【工房見学】お一人550円



自然で優しい風合いを大切に
自分の手で何かを作る仕事をしたいと思い、
35歳の時に越前町へ。越前焼は、地元の土
を使い、地元で作る良さがあり、のどかな里
山の雰囲気で作品作りに集中できる環境が良
いと話す泉さん。日常使いで使いやすい愛着
のわく器づくりを念頭に、絵の具や顔料を使
わずに土で色をつける自然で優しい風合いが
特徴。最近では、陶芸の道具を活かした持ち
運び可能なピザ釜を考え、イベントなどに
出してピザの試食など新しい層への開拓にも
力を入れている。

自然で優しい風合いを大切に



豊彩窯

吉田豊一・雄貴

越前町平等44-11

【工房見学】お一人550円



生活に寄り添える器づくり
越前焼の発祥の地である平等地区に
生まれたことから、陶芸の道へ。平
成5年に自分の窯を構え作陶に励ん
でいる。越前の土の良さは鉄分を多
く含みねばりがよく作りやすいこと
と話す。新緑や枯れ葉など、季節感
を持った自然の色を再現することに
力を注ぎ、作陶の傍ら、日展や現代
工芸展の作品作りにも励んでいる。
最近では息子・雄貴さんと共に親子2
代で、土の色を活かしつつ現代でも
受け入れられるポップな色使いの作
品づくりを心がけて、越前焼を次の
世代へと続けていきたいと取り組ん
でいる。

使って楽しくほっとするものを

地元越前町小曾原で生まれた大屋さん。父も母も陶芸家という陶芸一家で育つものの、学生時代は建築の道を志す。しかし土による自由なものづくりの楽しさを知り、陶芸の道へと進む。「越前で作って、越前ならではの雰囲気を持ちつつ、毎日の生活の中で使っていて、ほっとするものができるようにと思っています。」と語る。穴窯で焼いた古越前を彷彿させる器や粉引き（白化粧）の器、鳥や動物、物語の世界を形作った作品などを生み出している。



風来窯

大屋 宇一郎

越前町小曾原107-1-110

【工房見学】お一人1,650円



優しい気持ちになれるものを

大学で美術を学ぶ中、自分でものを作り出したいと思い、立体物で好きな形を作れる陶芸の世界へ。越前焼は作家さんが個々に作風をもっている自由さと、作家を育てる風土や土地の雰囲気が好きで、作家を育てる風土や土地の雰囲気（白化粧）を用いた作品が特徴で、自分があるといいな、と思う生活に根付いた普段使いの器を作り続けている。最近では、自然豊かな土地の空気感を感じてもらいたいと、工房での月一の展示会を開催。（毎月第2土曜開催）ぜひ足を運んで土地の空気感を感じて欲しい。



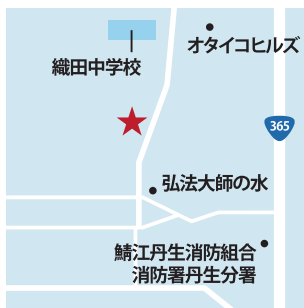
みしようがま 実生窯

新藤 聡子

越前町平等14-3

【工房見学】お一人550円

※月一展示会：毎月第2土曜開催



越前焼の魅力に触れる おすすめ体験プログラム



学芸員が案内する！『越前焼』の世界へ

福井県陶芸館の学芸員による越前焼の歴史の解説に加え、越前焼の窯元を訪らし、越前焼の魅力についての話を聞いて、越前焼にどっぷりつかることが出来ます。越前焼の器で楽しむお抹茶体験（生菓子付）付。

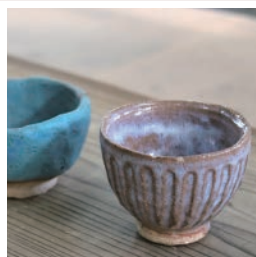
料金：お一人2,300円（税込）
 集合場所：福井県陶芸館（福井県丹生郡越前町小曾原120-1）
 所要時間：約2時間30分
 申込先：越前町観光連盟 TEL：0778-37-1234



プロの世界へようこそ！本格「越前焼」体験

越前焼の窯元さんから陶芸の話聞いてから、窯元になった気分で電動ろくろを使った本格的な陶芸体験ができる、プロになった気分を味わえる本格的な越前焼づくり体験プラン。

料金：お一人4,500円（税込）※商品発送代別途
 集合場所：福井県陶芸館（福井県丹生郡越前町小曾原120-1）
 所要時間：約1時間30分
 申込先：越前町観光連盟 TEL：0778-37-1234



越前焼マイぐいのみ作りと地酒セット

7種類の釉薬から好きな色を選んで作れるマイぐいのみづくり。出来上がった作品は、越前町にある丹生酒造の地酒とともに後日お届け。プレゼントにもオススメです。

料金：お一人4,800円（税込）※商品発送代別途
 集合場所：福井県陶芸館（福井県丹生郡越前町小曾原120-1）
 所要時間：約1時間30分
 申込先：越前町観光連盟 TEL：0778-37-1234



= 越前町体感プログラム =

ローカル密着、ココロに密着

越前ココ旅

Echizen-town Local Experience Trip

越前町のあそび方が できました。

越前町で遊ぶなら、飾り気のない素のままの魅力を楽しむのが一番。地域の人たちで提供するならではの体験をお楽しみください。



日向工房

日向 光

越前町小曾原54-43-10

【工房見学】お一人550円



技術とデザインで土を生かす
 昭和46年11月に、古川陶苑を見学したのがきっかけで越前焼の練習生として越前陶芸村へ。越前焼は、土の質がよく様々な作品づくりに応用の効くところが良いそう。ただ、越前の土は色味が淡く地味な印象となるため都会の人や若い人たちからの評判が低いのが長年の悩みだった。そのため最近では、明るい色の釉薬と土の地の色を活かした作品づくりに取り組んでいる。高い技術により実現できるまっすぐとしたラインをデザインに取り入れるなど、他の産地や人にできないことをすることで商品力を高めている。

越前陶芸村 周辺MAP



越前陶芸村は越前焼産地の拠点として1971年に誕生しました。村内には、博物館や資料館、後継者育成のための指導所、越前焼の直売所などがあります。



福井県陶芸館

越前焼を学ぶことができる博物館で、手ひねり体験などが出来る陶芸教室も。

【住所】越前町小曾原120-61
【電話】0778-32-2174



越前古窯博物館

越前古窯研究の第一人者である水野九右衛門氏の資料を展示する。

【住所】越前町小曾原107-1-169
【電話】0778-32-3262



越前陶芸村文化交流会館

越前焼のカップで珈琲を楽しむコインカフェがある多目的ホール。

【住所】越前町小曾原7-8
【電話】0778-32-3200



越前焼の館

越前焼工業協同組合が運営する越前焼の直売所。壺や花瓶から日用雑器まで。

【住所】越前町小曾原5-33
【電話】0778-32-2199



花みずき温泉 若竹荘

越前陶芸村の近くの天然温泉の日帰り入浴施設。とろりとした泉質は県内随一。

【住所】越前町小曾原119-1-2
【電話】0778-32-2753

十割そば だいこん舎

こだわりの素材と越前焼の器を楽しむおそば屋さん

【住所】越前町小曾原120-3-20
【電話】0778-32-3735

料理旅館 樹香苑

この地域の伝統的な古民家造りのぬくもりの温泉宿

【住所】越前町小曾原7-7-1
【電話】0778-32-2332

広域マップ



福井県は伝統産業の集積地
越前陶芸村 から各地への所要時間

越前町（越前陶芸村）までの交通アクセス

- 車の場合**
- ・ 武生 IC または 鯖江 IC から越前陶芸村まで約 30 分
 - ・ 福井 IC から越前陶芸村まで約 40 分
 - ・ 敦賀 IC から越前陶芸村まで約 50 分

- 電車の場合**
 武生駅着まで
- <東京からの場合>
 東京駅 > 北陸新幹線 > 福井駅 > ハビラインふくい > 武生駅
 - <名古屋からの場合>
 名古屋駅 > 東海道新幹線 > 米原駅 > 特急しらさぎ >
 > 敦賀駅 > ハビラインふくい > 武生駅
 - <大阪からの場合>
 大阪駅 > 特急サンダーバード > 敦賀駅 > ハビラインふくい >
 > 武生駅

**武生駅から
 路線バス利用**
 武生駅で福鉄バス・越前海岸行に
 乗車し越前陶芸村まで約20分

<p>越前和紙 越前和紙の里 …約35分</p>	<p>越前打刃物 タケフナイフビレッジ …約30分</p>	<p>越前漆器 うるしの里会館 …約40分</p>
<p>石田織 鯖江市織維協会 …約25分</p>	<p>鯖江の眼鏡 めがねミュージアム …約30分</p>	<p>越前竹人形 越前竹人形の里 …約1時間10分</p>
<p>若狭塗 お箸のふるさと館 …約1時間30分</p>	<p>若狭めのう 若狭おばま食文化館 …約1時間30分</p>	